



死



生

我々は、どこから来て？  
何者で？  
どこへ行くのか？

Paul Gauguin  
Museum of Fine Arts, Boston

# 見えない物

## 科学による可視化

(生物学的) 病原体  
(物理学的) 放射能  
(化学的) 化学物質  
自然現象  
人の心  
未来

○

○

○

△

X?

X

科学コミュニケーションの大切さ

人権問題の難かしさ

# 感染症が原因の人権問題例

- |                              |       |
|------------------------------|-------|
| 1, ペスト                       | 迫害    |
| 2, ハンセン病                     | 隔離    |
| 3, 結核                        | 隔離    |
| 4, コレラ                       | 迫害、攘夷 |
| 5, 性感染症:梅毒、HIV               | 嫌悪    |
| 6, <b>新型</b> 感染症:インフルエンザ、コロナ | 不安感   |

# ペストとCOVID-19の比較

(加藤)  
2020.6. 21.

項目	ペスト	COVID-19
権威の失墜	カトリック教会、教皇 (⇒ <b>宗教改革</b> )	WHO?、CDC? 非科学的指導者
固有文化の発展	固有言語の使用(⇒ <b>ルネサンス</b> )	対面文化の再認識
科学の発展	検疫・解剖学・印刷術	IT,On-line生活。感染症は国際協力。
労働構造の変化	賃金労働の発生 (⇒ <b>産業革命</b> )	貧富の2極化・屋内と屋外労働2極化。
不安に基づく迫害	犯人捜し (⇒ <b>ユダヤ人迫害</b> )	感染者 (犯人) 捜し
個人の確立	個人主義の発生・確立	国益優先。国際協調の衰退。
世界経済	人口減による停滞	不況3年。米中の2中心化。サプライの自国化
人口問題	人口減による停滞	移民の拡大(日本) ??
感情	個人の感性の開放(⇒ <b>ルネサンス</b> )	感情の世界化・一体化(共感・恐怖)
変化のスピード	100年単位	1-2年単位

## 5、次に備える意識と組織の必要性

21世紀の新しい感染症(出現と拡大)				
年	名称	出現/ 拡大	地域	日本へ 入ったか
2002	SARS	出現	中国から世界へ	X
2009	新型インフルエンザ	出現	北米から世界へ	○
2012	MERS	出現	中東	X
2014	エボラ出血熱	拡大	西アフリカ	X
2015	MERS	拡大	韓国	X
2016	ジカ熱	拡大	ブラジル中心に南米	X
2018	エボラ出血熱	拡大	コンゴ民主共和国	X
2019	COVID-19	出現	中国から世界へ	○

5年に1度

10年に1度

## 5, 正しい情報発信の重要性

感染症はリスクマネジメント(常に備える)

→ 恒常的な調査研究・対策立案組織

不安を減らすリーダーシップ(明確な方針提示)

→ 情報発信への信頼性

政治が科学の上にはいけない

→ 最終的には政治家の決断によるが、  
科学的な基盤を持つこと

# 新型コロナの評価（黒木登志夫）

## ベスト・プラクティス7

- ・国民
- ・医療・介護スタッフ
- ・公務員
- ・全国知事会
- ・エッセンシャルワーカー
- ・学生
- ・オンライン会議

## ワーストプラクティス7

- ・GOTO キャンペーン
- ・医療逼迫
- ・PCR検査
- ・ワクチンの遅れ
- ・リスクコミュニケーション
- ・専門家の「未必の故意」
- ・政府と官僚の縦割り行政と無謬性神話

黒木登志夫「変異ウイルスとの闘い——コロナ治療薬とワクチン」  
中公新書 2022.5.25.

# 人権についての印象として

人権政策・人権窓口にたどり着くシステムが弱いのではないか？



- どうすればたどり着きやすくなるのか？
- もっと現場感覚を！



# 人類と感染症の歴史

—未知なる恐怖を超えて—

加藤茂孝



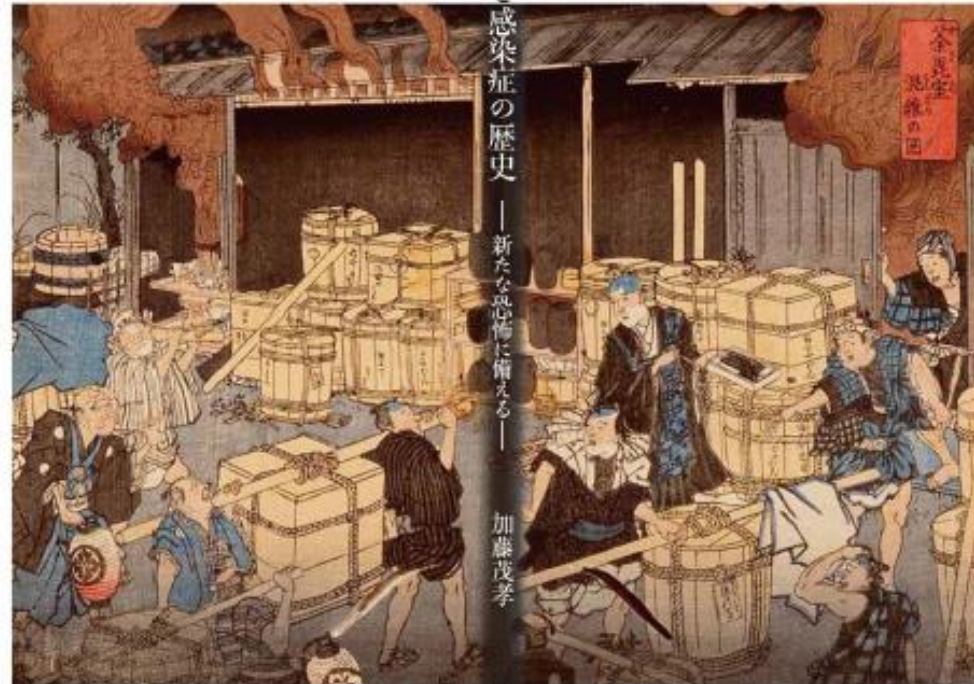
丸善出版

天然痘、麻疹、風疹、結核、  
ポリオ、インフルエンザ、  
ペスト、西ナイル熱

# 続・人類と感染症の歴史

—新たな恐怖に備える—

加藤茂孝



続・人類と感染症の歴史 —新たな恐怖に備える—

加藤茂孝

丸善出版

HIV/AIDS、ハンセン病、  
コレラ、マラリア、梅毒、  
エボラ、**SARS/MERS**、  
狂犬病